



第2次 遠野市農林水産振興ビジョン (タフ・ビジョンⅡ)

Tono Agriculture Forestry Fisheries Vision

平成 28 年度～平成 32 年度
(2016 年度～2020 年度)

平 成 2 8 年 3 月
岩 手 県 遠 野 市

【目次】

1 ビジョン策定にあたって	
Ⅰ 計画の策定の背景と趣旨	2
Ⅱ 計画の構成、名称及び期間	3
Ⅲ 農林水産業の現状	4
2 農林水産振興ビジョン タフ・ビジョン	
Ⅰ 農林水産振興ビジョンの目的、名称及び計画期間	8
Ⅱ 農林水産業の目指すべき姿と実現のためのビジョン	9
姿1 農地を農地として活かすまち	10
姿2 みんながいいき就農するまち	11
姿3 農業で生計がたち後継者が育つまち	12
姿4 地域特性を活かしブランド化が進むまち	13
姿5 6次産業化に積極的に取組むまち	14
姿6 里山が美しく林業が元気なまち	15
姿7 日本のふるさとが実感されるまち	16
3 遠野市農林水産振興計画 タフ・プラン	
Ⅰ 農林水産振興計画の目的、名称及び期間	18
Ⅱ 施策の体系	19
Ⅲ 施策別計画	20
1 農業の振興	20
(1) 農地の有効活用	20
(2) 多様な労働力の発揮	21
(3) 高収益農家の拡大	23
(4) 生産振興とブランド化の推進	25
(5) 地産地消及び6次産業化の推進	33
(6) 農村環境の保全	34
2 林業の振興	35
(1) 里山美林の推進	35
(2) 林業・木材・住宅産業の振興	36
(3) 山村振興・特用林産の振興	37
Ⅳ 地区ごとの振興方向	38
4 推進体制	
Ⅰ 推進体制	42
5 主要事業	
Ⅰ 主要事業	46
6 リーディングプロジェクト	
Ⅰ リーディングプロジェクト	50
7 目標数値	
Ⅰ 目標数値	54
8 資料編	
Ⅰ 統計資料	64

1 ビジョン策定にあたって



農業従事者の減少や高齢化の進展、耕作放棄地の発生や鳥獣被害の増加、さらには、米価の下落や穀物価格の高騰などによる農業所得の減少など、時代の大きな流れの中で、農業・農村情勢は大きく変化しています。

林業においては、海外からの安価な木材輸入の増加などにより、国産木材価格の低迷が続き、森林経営に対する意欲の薄れによって、森林整備が立ち遅れ、国内の森林の荒廃が進んでいます。

国では、平成 27 年 3 月に「新たな食料・農業・農村基本計画」を閣議決定し、経済社会の構造変化等に的確に対応し、その潜在力を最大限発揮しながら、将来にわたってその役割を適切に担っていけるよう、施策の改革や国民全体による取組を進めるための指針を示しました。

一方、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)に大筋合意し、品目ごとの関税の見直しが今後段階的に進められていくことが現実のものとなり、国際的な価格競争に打ち勝つ農業を進めていかなければならない時代となりました。

このような情勢に対応するため、農地を農地として有効に活用することによる経営の強化、担い手の育成・確保や農地の集積による農業経営の効率化や低コスト化の推進、さらには、6次産業化による付加価値を高める取組など、時代の変化に応じた農業を進めていく必要があります。

また、林業においては、公共施設木造化促進法の成立や木質バイオマスの普及によるエネルギー利用の拡大など、木材需要を後押しする環境も進みつつあることから、これらに遅れをとることなく取組む必要があります。

農地や森林が持つ多面的機能の維持・発揮に努め、豊かな農村環境を後世に継承していくことを使命に、農林業を中心とした本市の一次産業を総合的、計画的に振興し、平成 28 年度から始まる市総合計画前期基本計画の着実な取組を図るため、ここに第二次遠野市農林水産振興ビジョンを策定しました。

Ⅱ

計画の構成、名称及び期間

農林水産振興ビジョンは、ビジョン及び振興計画を包括する総称です。

このビジョンは、遠野市総合計画を上位計画とし、農林業を中心とした本市一次産業を総合的・計画的に振興するための方向性とその実現方法を示す計画となるものです。

ビジョン

ビジョンは、本市農林水産業の目指すべき姿や振興に向けた基本理念を明らかにするとともに、実現するために推進すべき施策の方向を示しています。

計画期間は、遠野市総合計画の期間にあわせ、5年間(平成28年度～32年度)としました。

振興計画

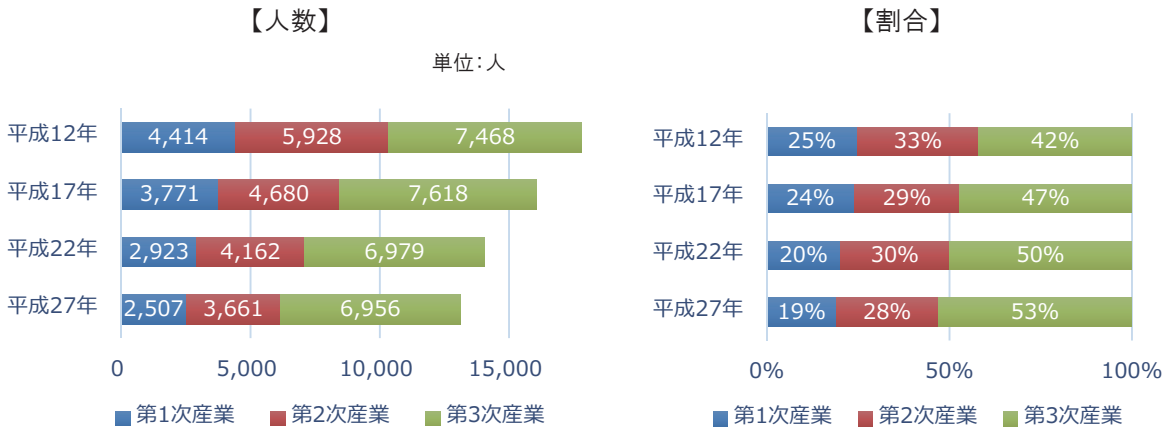
振興計画は、ビジョンで定めた施策の方向の実現に向けて、必要となる主要施策や主要事業を体系的に明らかにしています。

計画期間は、ビジョンの期間にあわせ、5年間(平成28年度～32年度)としました。

1 産業別従業者数

平成 22 年国勢調査によると、本市の産業別従業者数からみる第 1 次産業の従業者数は 2,923 人となっており、平成 17 年と比較し 22.5%の減少となっている。
また、構成割合も 20%と、4%の減少となるなど、農業従事者の減少が顕著となっている。

(1) 産業別従業者数(人数及び割合)

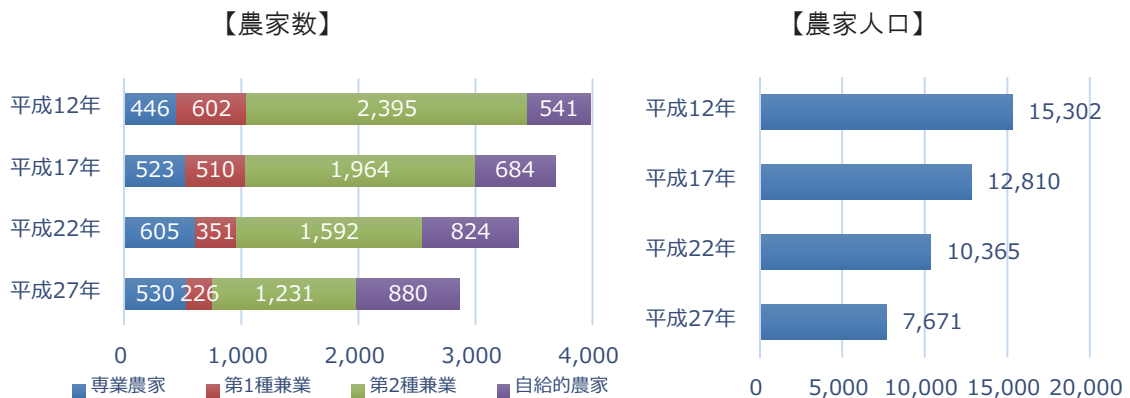


資料:国勢調査(平成 27 年度は、遠野市総合計画)

2 農家数、農家人口及び経営耕地面積

平成 27 年世界農林業センサスによると、本市の農家数、農家人口ともに大きく減少していることが数値の面からも明らかである。同様に、経営耕地面積も減少し続けている。

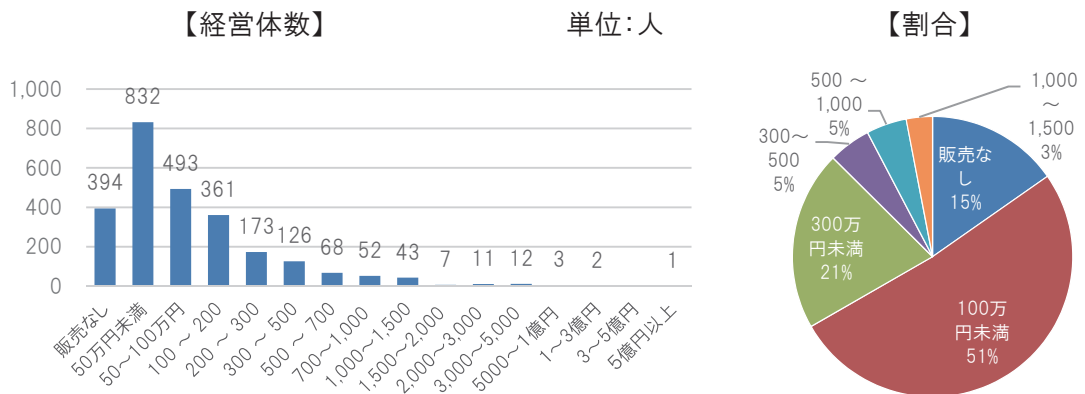
(1) 農家数及び農家人口



資料:世界農林業センサス

(2) 農産物販売金額規模別経営体数(経営対数及び割合)

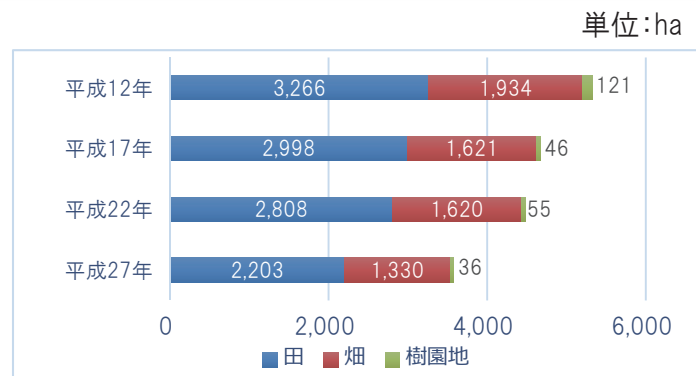
年間の販売額 100 万円以下の農家が 51%で過半数を占めている。



出展:2015 世界農林業センサス

(3) 経営耕地面積

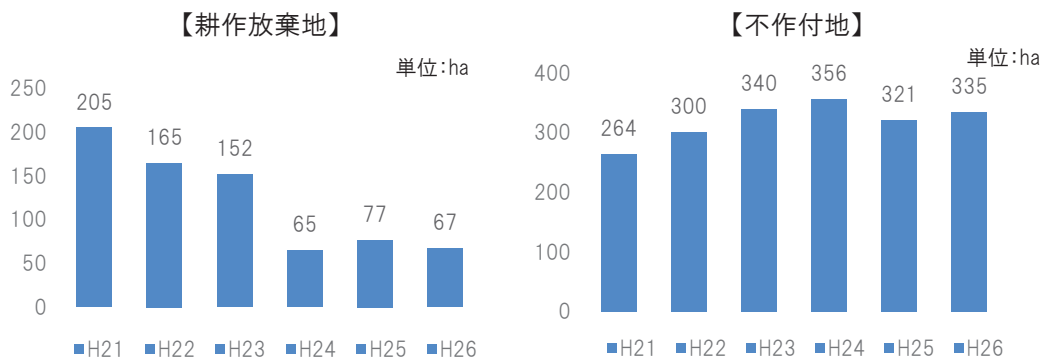
経営耕地面積は、農家戸数、農業人口と同様に減少し続けている。



出展:世界農林業センサス

(4) 耕作放棄地及び不作地面積

耕作放棄地、不作付地ともに平成24年度から関係機関と連携し対策を講じ横ばい傾向にある。

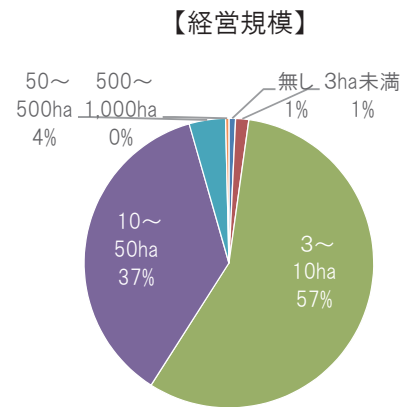
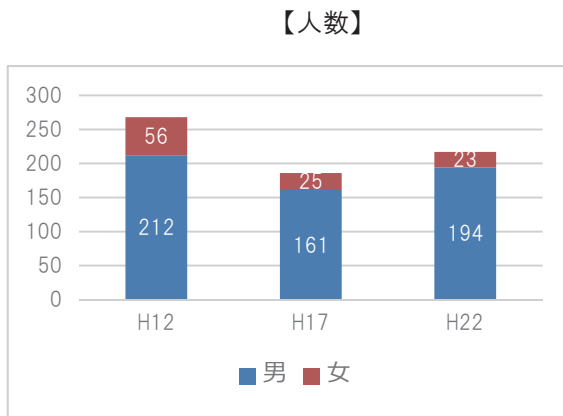


出展:遠野市農業振興課

3 林業の動向

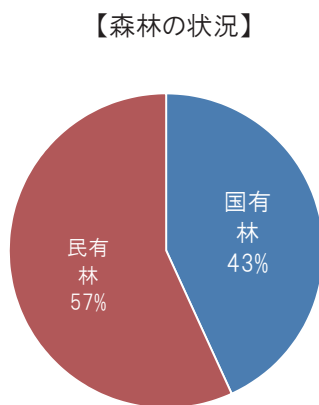
林業従事者は、200 人前後で推移しており、10 ヘクタール以下の経営規模が 58%で過半を占めている。

(1) 林業従業者数

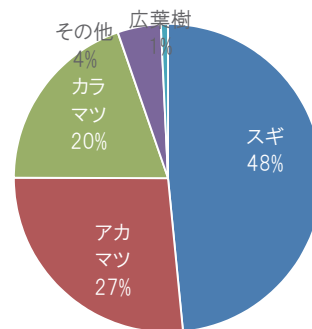


資料：国勢調査・2015 世界農林業センサス

(2) 森林の状況

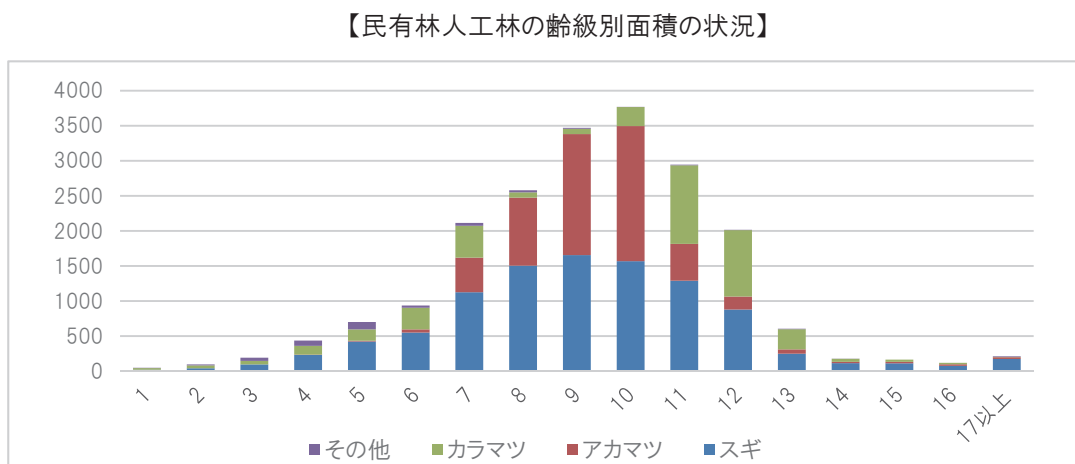


【民有林人工林の樹種別状況】



資料：県林業動向年報

(3) 民有林人工林の齢級別面積の状況



資料：市林業振興課